



第14回JUAAビジネス・スクール シンポジウム

1) 概要

開催日時 : 2022 (令和4) 年9月29日 (木) 13:00~14:30

会場 : Zoom ウェビナー

参加者数 : 59名

テーマ : 「経営系専門職大学院における教員・教員組織のあり方とは」

登壇者 : 藤村 博之氏 (法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、
大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会委員長)

佐藤 智恵氏 (BIPROGY (旧・日本ユニシス) 株式会社 取締役)

高田 仁氏 (九州大学経済学府 産業マネジメント専攻 専攻長)

山田 久氏 (株式会社日本総合研究所 副理事長)

横山 研治氏 (名古屋商科大学ビジネススクール研究科長 (渉外)、
大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会副委員長)

2) 内容

<講演>

藤村博之 氏 (法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、
大学基準協会 経営系専門職大学院認証評価委員会 委員長)

本協会経営系専門職大学院認証評価委員会委員長である藤村博之氏より、開会挨拶の
ち、経営系専門職大学院認証評価の概要及び第4期基準の改定ポイントについて説明が
ありました。講演資料は本報告末尾に掲載しております。

経営系専門職大学院認証評価の概要・評価基準

第4期基準の改定ポイント

◇経営系専門職大学院開設から20年が経過しようとしている現在、
開設当初に想定されていた状況が変化してきている

(1)育成する人材像の多様化
各大学院が個性を発揮することをもっと重視したい

(2)実務家教員の意味と位置づけ
設置基準に「実務家教員が3割以上」とされているが、上限はない。

◎理論と実務の架橋教育を重視⇒どのような資質を持った教員が必要か?

1

<パネルディスカッション>

コーディネーター：

横山 研治氏（名古屋商科大学ビジネススクール研究科長（渉外）、
大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会副委員長）

パネリスト：

佐藤 智恵氏（B I P R O G Y（旧・日本ユニシス）株式会社 取締役）

高田 仁 氏（九州大学経済学府 産業マネジメント専攻 専攻長）

山田 久 氏（株式会社日本総合研究所 副理事長）

パネルディスカッションでは、大要以下のテーマで意見交換をしました。

- ・研究者教員と実務家教員をそれぞれどのように定義しているか。
- ・研究者教員と実務家教員で期待される役割の違いとはなにか。
- ・「研究者教員と実務家教員が協力して理論と実践の架橋教育を実現しなければならない」と言われるが、具体的にどのようなことを想定しているか。
- ・研究者教員と実務家教員の割合について数値基準を設けることの適切性について。
- ・国際認証の評価基準をどの程度意識すべきか。



<閉会挨拶>

横山 研治 氏（大学基準協会 経営系専門職大学院認証評価委員会 副委員長、
名古屋商科大学ビジネススクール研究科長（渉外））

パネルディスカッションでの意見交換を踏まえて、横山研治氏からは、各経営系専門職大学院は、自らが固有の目的に沿って、研究者教員・実務家教員を定義し教育活動に取り組んでいただきたいこと、そして、各教員の「研究活動」は、論文を書くというものだけでなく、特に実務家教員においては、実務的な活動・社会的な活動も研究活動として捉えることができ、各大学院が固有の目的に即して研究のあり方を定義していくことが重要であることが述べられました。

最後に、各経営系専門職大学院の発展に寄与するために、第4期基準を活用していただきたい旨が語られました。



3) 感想

今回のシンポジウムは、来年度から開始する第4期経営系専門職大学院認証評価を見据えて、新たに改定した基準への理解を深めるとともに、これまで経営系専門職大学院認証評価を実施する中で特に話題となるが多かった、経営系専門職大学院における教員・教員組織のあり方について考える場として設定されました。

藤村氏の講演において、この度の基準改定は、各経営系専門職大学院の個性により寄り添った評価を行うとともに、その特色を伸長させていくことを目指している旨が説明されました。その後のパネルディスカッションでは、研究者教員・実務家教員の定義や研究活動に関して多様な意見が示され、教員・教員組織の在り方については、固有の目的に沿ってさまざまな考え方があり得ることが確認できました。本協会では、経営系専門職大学院認証評価やこのようなシンポジウムの場を通じて、各経営系専門職大学院が独自性を発揮し、さらに質の高い教育活動を行うことができるよう、微力ながら貢献していきたいと思えます。

(大学基準協会 事務局)

以 上



第4期基準の改定ポイント

◇経営系専門職大学院開設から20年が経過しようとしている現在、
開設当初に想定されていた状況が変化してきている

(1) 育成する人材像の多様化

各大学院が個性を発揮することをもっと重視したい

(2) 実務家教員の意味と位置づけ

設置基準に「実務家教員が3割以上」とされているが、上限はない。

◎理論と実務の架橋教育を重視⇒どのような資質を持った教員が必要か？



評価基準—経営系専門職大学院基準—

第4期基準の改定ポイント

1. 戦略に基づく教育研究活動の展開の強化

大項目1: 使命・目的

評価の視点1-2

これまでも策定・実行を求めていた戦略に関して、効果的な実行の必要性から、“実効性のある戦略”と明記

大項目2: 教育課程・学習成果、学生

評価の視点2-3

戦略と具体的な教育活動(教育課程・教育方法)の連関を明確化



点検・評価報告書の「序章」

- ・戦略に基づく教育研究活動の展開について記述
- ・当該専門職大学院の長など、プログラムのデザインに責任を持つ方が執筆



評価基準—経営系専門職大学院基準—

第4期基準の改定ポイント

2. 経営系専門職大学院における教員のあり方について

大項目3:教員・教員組織

評価の視点3-1

固有の目的を実現し、理論と実務を架橋する教育を行うにふさわしい教員組織をどのように編制するかという考え方の明示

評価の視点3-2

研究者教員と実務家教員のバランスのとれた配置など、教員組織を編制するにあたって留意すべき事項を明確化

評価の視点3-5

教員の任用時の要件等を明示し、必要な研究能力・教育上の指導能力を備えているかを審査することを念頭に置いた基準等の策定



評価基準—経営系専門職大学院基準—

第4期基準の改定ポイント

3. 経営系専門職大学院における研究の重要性

大項目3:教員・教員組織

評価の視点3-7

各経営系専門職大学院が考える研究のあり方について説明を求めたうえで、

各専任教員が学術的研究や実務に基づく研究を継続的に取り組むよう組織的に支援することを求める

